共同研究機関：酪農学園大学・釧路公立大学（環境研究総合推進費で実施）

釧路湿原のシカ管理の戦略と戦術

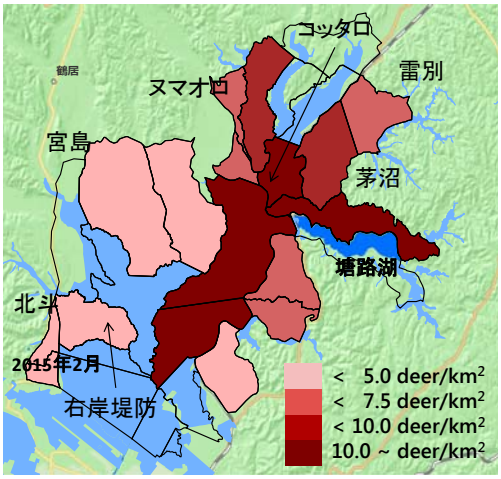
エゾシカの密度構造を把握、湿原植生への影響把握手法を確立し、希少種の生育・生息に配慮したシカ管理を提案します

背　景

釧路湿原では2000～2010年にシカの足跡密度が5倍以上に増加、貴重な湿原生態系に悪影響を及ぼしているほか、周辺市町村における農林業被害や列車支障件数が増加しており、適切な個体数管理が求められています。

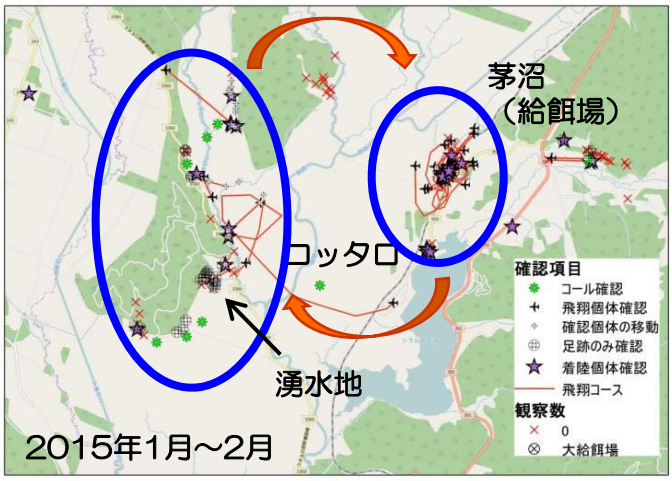
成　果

1 航空機調査による密度把握



◆冬季の高密度地域が明確に
◆推定生息数は約2,000頭

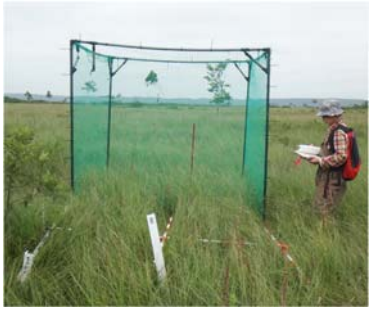
2 タンチョウの冬季湿原利用



◆給餌場と湧水地間の往来を確認
◆コッタロ湿原におけるシカ捕獲は、時間帯を選べば可能

3 植生への影響把握手法の確立

ミゾソバの食痕


シカ排除柵

◆ミゾソバなど16種の指標種
　～シカの食痕率
◆シカ排除柵内外の比較
　～植物の量（面積×高さ）

・釧路湿原の広域管理を提案
・タンチョウに配慮した捕獲戦術を提案
・植生指標による影響把握手法の確立

期待される効果

○湿原に及ぼすシカの影響把握手法を確立することで、管理対策の効果を検証することが可能になります。
○生態系維持回復事業（国）、広域捕獲推進モデル事業（道）、被害防止対策（市町村）等に活用されます。

問い合わせ：道総研　環境科学研究センター　　電話：011-747-3521